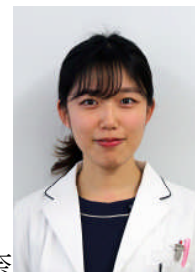


和歌山病院での実習を終えて



酒井 伽奈

私たちは和歌山県立医科大学第三内科の実習の一環として、2018年10月23日からの2日間を和歌山病院で実習させていただきました。セミナーの他にも結核病棟の見学や南方院長とのお食事など、大学病院とは雰囲気の違う実習をさせていただきました。

まず、病院に到着してからすぐのセミナーでは、駿田副院長が結核の感染様式について詳しくお話してくださいました。結核が空気感染であるという事実は4年生の時に講義で教わり知っていましたが、決して飛沫感染や接触感染はしないということを理由も含めて詳しく教えていただきました。正直これまでの病棟実習では結核と聞くと過剰な反応をしてしまっていたのですが、駿田副院長の講義で、正しい対策をすれば感染することはないと理解できました。またこのセミナーの後には実際に結核病棟の見学もさせていただきました。これまでの大学での病棟実習でもN95マスクは着用したことがありましたが、駿田副院長に詳しく正しい着用法を教わりました。結核病棟では実際に煙を使って陰圧管理されていることを示してください、また、他の病室と同じようなつくりになっていて患者さんが必要以上の圧迫感を感じないようにしていることが分かりました。

その後のセミナーでは、南方院長が胸部X線の原理について非常に楽しくかつ明快にお話してくださいました。正直今までなんとなくの理解と視点で見てきたX線でしたが、影絵とX線画像の違いやX線で線として見えるための条件など、私たちがなんとなくでしか理解できていなかった根本を丁寧に教えてくださり、とても嬉しかったです。これからの大学での実習にも生かしていきたいです。

次に2日目のセミナーでは、駿田副院長が結核の病態について詳しくお話してくださいました。実際の結核患者さんのX線写真を見ながら知識を確認することができました。また、南方院長は気管支の成り立ち・肺区域の解剖をブロンコ体操を通じて体に染みつくまで教えてくださり、この知識と前日のX線の原理を用いて練習問題を皆で論理的に考えていくということをしました。特に二次結核の好発部位について、知識としてS1.2.6と呪文のように覚えていたのを、肺の後ろ・上の方と覚えれば良いと理由も含めて教えてくださったのは印象に残っています。教科書に暗記事項のように書いていることにも実は論理的な理由があることを実感することが出来ました。

このように、どの先生方も一方的でなく、私たちが理解しやすいように・置いて行かれ

ないようにと覚える時間や考える時間を設けて気にかけてくださり、私たちはよく理解することが出来たと思います。また、今回は主に胸部 X 線と結核についてでしたが、医学全般において原理・原則を理解することで論理的に考えることが出来そうであることも学べたので、これから自分で実習や国試勉強をするときに意識していきたいです。そして、もっとたくさんの方のことを南方院長や駿田副院長から学びたいと思い、選択ポリクリでも和歌山病院で実習させていただきたいと感じました。

最後となりましたが、お忙しい中私たちに時間をさいてくださった南方院長、駿田副院長をはじめとする先生方、スタッフの皆様に感謝申し上げます。2 日間という短い期間ではありましたが、貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。またお世話になる機会がありましたら、その時はよろしく願いいたします。